

家庭学習応援だより

第2号

5月は、各学年で初めての月例テストが行われました。ある学級では、「先生、100点取りました。」と、月例テストの結果を見せてくれた児童がいました。本校の児童は、月例テストに対してとても意欲的です。ほとんどの児童が、何日も前から宿題以上に家庭学習をしています。また、保護者の方の関心も高いようで、家庭で自作の問題を解いてきたり、月例テストの前日などにプレテストのようにして家庭学習に取り組んだりする児童は多く、家庭学習のノートや家庭で用意したプリントから、保護者の方の家庭学習への熱意が伝わってきます。

ある調査によると、「子供がわからないところを教えてあげる親」は、

○低学年…96.5% ○中学年…91.5% ○高学年…82.4%

また、「子供の家庭学習を見る時間(週あたり)」は、

○0～2時間…24.9% ○2.5～4.5時間…62.4% ○5～7時間…12.0% ○無回答…0.7%

だそうです。今月もまた月例テストがあります。ご家庭でのご協力よろしくお願いします。



コミュニケーションボード



前号で予告しましたように、今号では、「担任や保護者の声」をお届けしたいと思います。

「宿題はきちんと自分で終わらせる?」、「なかなか宿題をやろうとしません。始めたと思ったら、ほかのことをしています。」など、どの家庭でも学習(勉強)では、いろいろな悩みに直面します。ですが、悩んでいるのは他の親も実は同じだったりします。決して1人ではありません。これは学校からのお願いですが、孤独感を感じる前に、ぜひ気軽に相談してください。悩みの本質が解決しなくても、思いを打ち明けるだけでも、気持ちが軽くなると思います。また、相談できる親どうしのつながりも大切にしてください。

では、本校を卒業した児童をもつセンパイ保護者のお二人に、家庭での学習を効果的にするポイントを伺ってみました。

Aさん(令和2年度本校卒業生 保護者)

小学校に通わせていたころは、他のご家庭でどんな家庭学習をしているのか気になりました。また、どのように大人(親)が働きかけたらよいかをよく考えていた気がします。

低学年のときは、短編のお話(童話など)を読んで感想や思ったことを書かせていました。うちの子の場合は、2年生の算数がなかなか難しかったようです。時計や図形など、言葉で説明しても子供にはイメージしづらかったのかなと思います。また、4年生のころからだんだん学習が難しくなってきた、日ごろの積み重ねや親の関わりがなかったら、学校で学習した内容が定着できなかったと思います。

自分の子供に教えていると、イライラしてしまうことがあります。今になって思うと、家庭での勉強はゲーム感覚でできたらよかったかなと思います。勉強中はつらい思いにはさせず、ほめてあげるのがよいと思います。

Bさん(令和2年度本校卒業生 保護者)

「家庭学習応援だより」を読んで、子供との具体的なかわり方が書かれていて「なるほど。」と思うところがありました。また、お便りにもありましたが、他のご家庭では、どんな教材をさせているのか気になっていました。

家庭では、宿題を必ず見るようにしていました。また、間違いなどがあった場合は一緒に解きなおしをしていました。家庭学習として、自主学习ノートをしていましたが、自分なりにできるようだったので、あまり口出しせず、本人に任せていました。月例テストの前などは、私が予想問題を作って解かせていました。低学年のときは、時間の余裕があったので、学習にかかわることができていました。中学年からは、少し本人に預け、宿題をチェックするくらいにしていました。

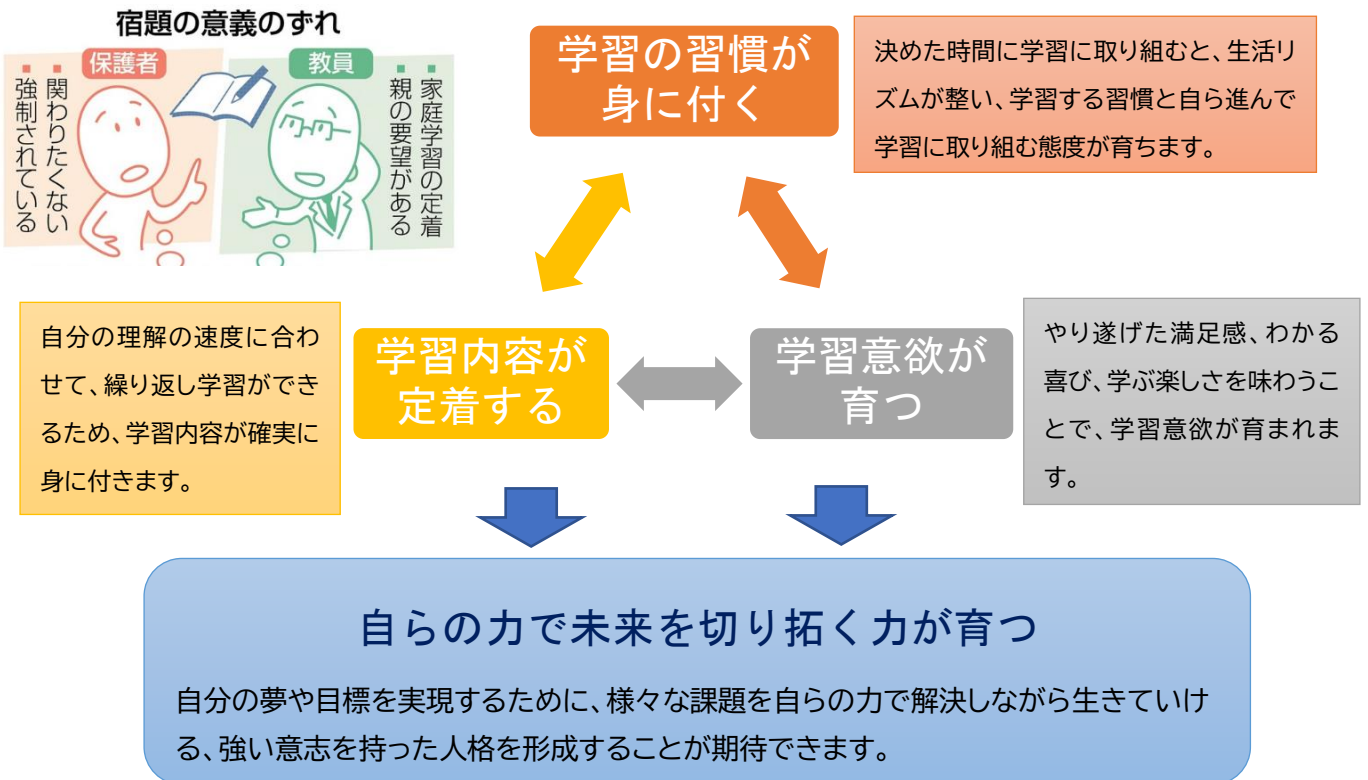
小学生のころから、2週間に1度、図書館に行くのが習慣になっていて現在も続けています。

次号は、本校の低・中・高学年の担任の教師から、家庭学習についての考えをお届けしたいと思います。

家庭学習の意義



家庭学習の習慣を身に付けさせるためには、子供が、家庭学習のよさを実感したり、なぜやるのかを理解したりすることが大切です。4月の初めごろに、担任が家庭学習(または、宿題)の取り組み方や意義についての話を発達の段階に応じて、子供たちにしているはずです。ご家庭でも、親御さんなりの言葉でかまいませんので、家庭での学習の意義についてお話いただけるとありがたいです。家庭と学校の考え方にずれがあると、かわいそうなのは、振り回される子供たちです。下図はお子様に伝えるときの参考にしてみてください。



熱中体験は学力にとってもプラス



過去の全国学力学習状況調査によると「物事を最後までやり遂げてうれしかったことはありますか？」に対して、「当てはまる」と答えた児童は、「当てはまらない」と答えた児童に比べて、国語・算数ともに、正答率が25ポイント以上、高い傾向にあるそうです。

これは、一般的に「非認知能力(スキル)」といわれるものの1つで、やり遂げる喜びを実感する経験の積み重ねが、自信や学習意欲につながったり、その後の人生の豊かさに大きく関わったりすると考えられています。

おわりに

私の家庭もそうでしたが、いま、小学生の半分以上がリビングやダイニングで学習していると聞きます。長所としては、声がかげやすい、親の存在を感じながら勉強できる(サボれない)ということでしょうか。

では、短所はどんなところでしょう。親子の距離が近い分、叱る回数が増えるということです。否定的な言葉が多いほど子供のやる気をそいでしまいます。お家の中で「親子ともに満足できる環境」を探してみてくださいましょう。